

氏 名	阿部 美代子
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	乙第301号
学位授与年月日	平成26年3月20日
審 査 委 員	主査 教授 竹下 治男
	副査 教授 大谷 浩
	副査 教授 石橋 豊

論文審査の結果の要旨

緑内障は失明の主たる原因の一つであるが、有病率は性、人種によって様々である。また、眼圧上昇によって眼底や視野に悪影響がある一方で「正常眼圧緑内障」の研究が進められつつある。そこで、本研究は地域住民における緑内障のスクリーニングと精密検査による診断から性や年齢別の有病率を明らかにすると共に、眼圧と眼底所見の関連を調べ考察した。緑内障スクリーニングは、中山間農村である島根県旧桜江町において20歳以上の住民を対象に住民健康診断調査の中で、1990年、1991年に実施した。スクリーニングには問診（緑内障の既往と自覚症状）、眼圧測定（ノンコンタクト眼圧計及び圧平式眼圧計）、眼底検査（眼底鏡、眼底写真等）を行った。圧平式眼圧値21mmHg以上の高眼圧、または眼底有所見とノンコンタクト眼圧値18mmHg以上の者に眼科専門医による精密検査受診を勧奨した。なお、精密検査については1993年まで行った。スクリーニング受診者は1,886人、受診率は58.5%で、そのうち12人が緑内障の既往を有した。既往の無い1,874人のうち精密検査で緑内障と診断された68人と合計すると、緑内障の有病率は4.2%（男性4.5%、女性4.0%）を示し、性差は無く、年齢と共に高くなる傾向は男女とも有意であった。眼圧測定と眼底検査を行った3,555眼において眼底の緑内障性変化の見られる割合は、眼圧閾値以上眼で有意に高率であったが、閾値未満眼においても7.8%存在し、緑内障において眼圧閾値はさらに検討が必要であることが示唆された。本研究は1990年代の結果であるが、長期経過後の観察・研究を今後検討していくにあたり、そのベースラインとしても有用であるものと考ええる。